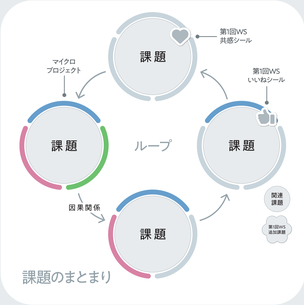
黒部地域
移動課題マップ

黒部移動課題マップは、黒部市における地域の移動をめぐる課題を、構造的に整理・可視化したものです。1年目は、住民や関係者との対話や現地調査を通じて、移動に関する困りごとや背景、その因果関係を丁寧に掘り下げ、「対話」「調査」「可視化」を中心に課題の全体像を明らかにしてきました。2年目となる現在はフェーズを「実行」に移し、可視化された課題を起点に、具体的なアクションとして3つのマイクロプロジェクトが進んでいます。

本マップでは、1年目に可視化されていた移動課題に対して、現在進行中の各マイクロプロジェクトが、どの課題の解決に寄与しているのかを対応関係として示しています。課題の全体像と、実際の取り組みとのつながりを俯瞰することで、これまでで進めてきた黒部での活動の一端を共有するためのマップです。

最終更新日：2026年1月24日

課題マップの見かた



マイクロプロジェクトの内容

くろべ「乗らず嫌い」脱出大作戦

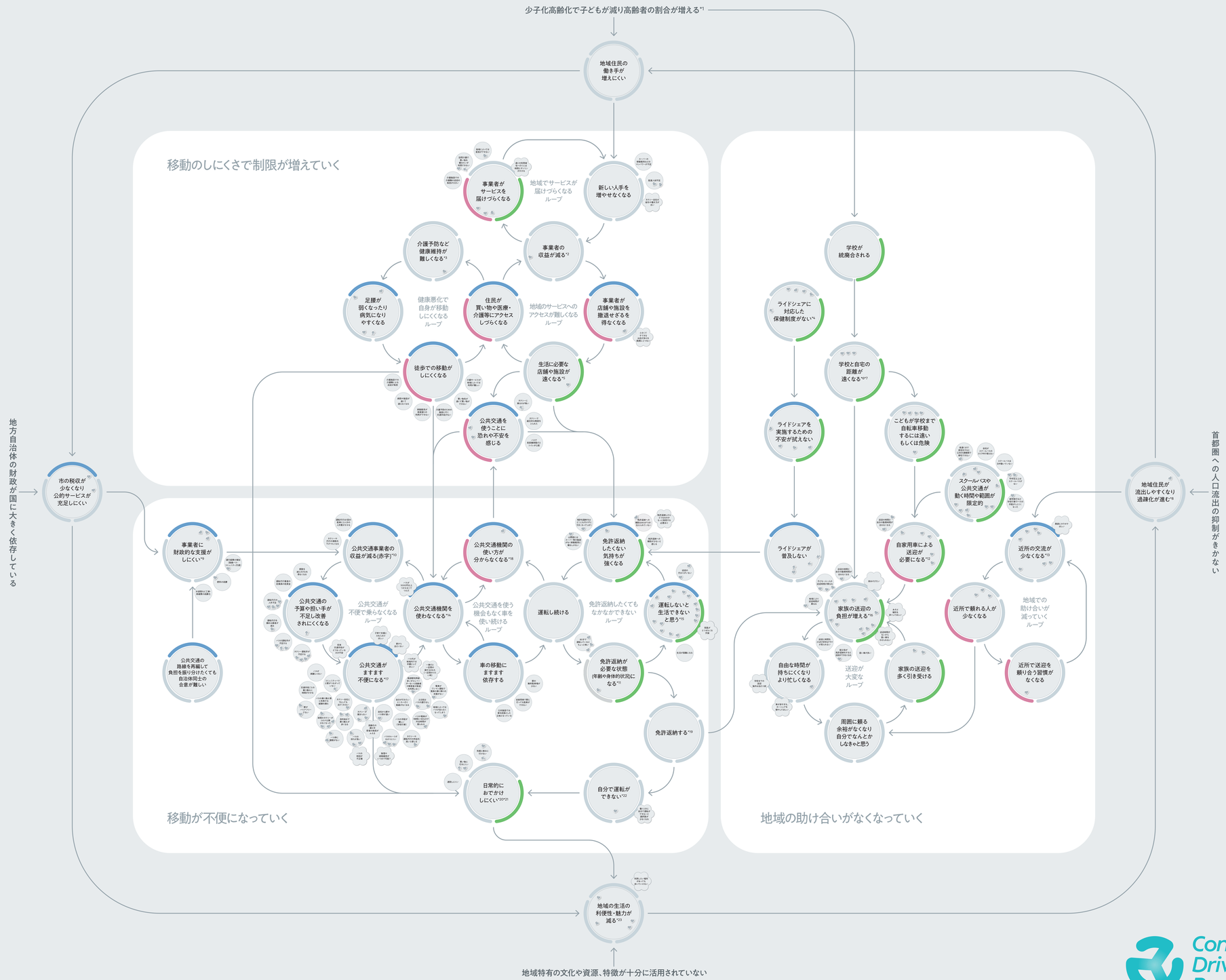
黒部市に根付く「公共交通は不便だ」という認識と、実際には多くの目的地が徒歩圏内にあるという事実とのズレを是正することを目的とする。情報の見せ方と実体験を通じて、公共交通に対する市民のメンタルマップを更新することを狙いとし、バス停周辺の利便施設の可視化や研究員自身による公共交通利用の発信などを行う。これにより、関与した研究員や報告会参加者の70%以上が公共交通への関心や意識の高まりを実感する状態を目標とする。

でかけレール × 助け合い交通

中山間地域における介護送迎の限界という課題に対し、既存の公共交通と地域の助け合い資源を組み合わせて解決策を検証することを目的とする。介護人材不足やコスト増によって失われつつある高齢者の移動機会に対し、自宅から駅までの住民送迎、鉄道による移動、駅から施設までの事業所送迎を連携させた新たな移動モデルを実証する。これにより、宇奈月エリアから介護施設までの移動時間を半分以下にし、送迎コストを30%削減することを目標とする。

「おたがいさま」で繋がる！ ココロネット応援大作戦

地域に既に存在する助け合いサービス「ココロネット」を題材に、認知不足や不安感といった利用拡大の壁を取り除くことを目的とする。移動を含む日常の小さな困りごとを住民同士で安心して解決できる仕組みへと進化させるため、運営者や利用者へのヒアリングを通じて課題を整理し、改善策や普及戦略を市民と共に設計する。これにより、参加者の認知度70%以上、利用意向60%以上を達成し、持続可能な地域互助モデルの構築を目標とする。



*1. 2020年度動態推計2.0%、2045年に34.5%に増加見込み / *2. 黒部ーイン・コミュニティ交通で約1億円の赤字（令和4年度） / *3. 65歳以上健康な人数は令和30年度2.6%が令和51年に3%に減少 / *4. ライドシェアは制度未整備で検討中 / *5. 生活施設「身近が良い」(68.1%、関内大型店「頻繁にしない」54.4% / *6. 年少人口減少により連合収益を減少予想 / *7. 登校児童生徒の割合年98.7%（R4年度末） / *8. 年間社会増減数（転入−転出）は、平成30年時点で−50人（転出超過） / *9. 公共交通利用者一人あたりの財政負担額66円（R4） / *10. 引き下げ運賃検討→大きな事業減（−65.6%）/事業人員（−8.6%）が減少 / *11. 「できる限り運転を続けたい」運転が54%に増加（R1は−9%）、運転者数も6ヒーク時より約3割減少 / *12. 通学で自家用車送迎を利用する割合40% / *13. 買出しで「挨拶はしっかり」の重要性、あるいは地域への関属意識の低下」が課題 / *14. 公共交通利用者数（2019年10.0万人→2021年12.3万人） / *15. 生な交通手段・自家用車78.1%、公共交通21.7%（H18） / *16. 通勤以外の移動の15%は自家用車送迎 / *17. 公共交通への満足度は3.77（前回より10.0%低下） / *18. 「わからない」が「理由の非利用」は後で17%、平日乗車量20%↓ / *19. 黒部市の免許返納者は192名（R4） / *20. 買い物等への移動は8割以上が自家用車 / *21. 80歳以上の43%が日常のおでかけに不便 / *22. 免許非所有者の70%が不便さを感じている / *23. 旧黒部市・旧宇奈月町合家のみ合流の後活動は5年で約7%減少

引用ソース: [*1,2,6,9,11,12,14,16,17,18,19,20,21,22] 黒部公共交通計画 / [*3,6,7] 第2期黒部市総合戦略 / [*4,5,8,10,13,15,23] 黒部市都市計画マスタープラン

Community Drive Project